

教育力開発コース「授業実践の振り返り」について

教育力開発コースは、授業設計、授業の実施・改善、教育活動を振り返り、自身の目標を明確にし、改善につなげるといった一連のプロセスを支援するためのものです。徳島大学においてはこれらの教育活動を重視しており、主に助教から講師、准教授昇任後 1 年以内の教員を対象に実施しています。

「授業実践の振り返り」は、日常的な授業における実践の振り返りを行うことで、授業の設計・実施の見直し及び改善までの取組を支援するもので、主な活動は次の通りです。

- 対象授業の「シラバス」の送付（既存のもの、または修正したもの）
- 対象授業日の「授業計画書」の作成・送付（任意様式）
- 学生アンケートの実施・送付（指定様式、集計は教育改革推進部門が行います）
- 「授業実践の振り返りシート」の作成（指定様式）

※授業実践の振り返りの際に使用する「シラバス」、「授業計画書」は教育力開発コースのみで使用するため、実際の授業のシラバス等を適切に修正しても問題ありません。ここで修正したシラバスを作成者及び学生に開示することはありません。

1. 授業設計（15 項目の自己評価）

- 対象授業のシラバスは、すべての項目が「教育の内部質保証に関する方針」等及び「シラバス作成ガイドライン」に適合している。

2. 授業実施（6 項目の自己評価）

- 作成した授業計画書では、授業が「導入」、「展開」、「まとめ」の三部構成で記載されており、学生の能動的な思考や参加を促す工夫がなされており、終始一方向的な解説のみで計画されていない。

3. 授業評価・改善（3 項目の自己評価）

- 授業実践振り返りシートでは、実施した学生アンケートの結果を踏まえて今後の計画が設計されている。

4. FD 委員会の承認

- 所属学部の FD 委員長が、提出された「シラバス」、「授業計画書」をもとに、「授業実践の振り返りシート」の各項目を確認し、授業における計画、実施、評価、改善のプロセスが実践できていることを認める。FD 委員会において「授業実践の振り返りシート」の承認を得る。

教育力開発コース「授業実践の振り返り」の実施手順

1. 実施する授業の決定（対象教員と部門担当者）

教育改革推進部門の担当者とメールでやり取りを行い、「授業実践の振り返り」を行う授業を決定します。原則、「授業設計ワークショップ」を受講した年度の後期の授業で実施しますが、対象教員の事情に合わせて、次年度以降の授業で実施することも可能です。実施する授業の①授業科目名、②履修学生の学部・学科・コースまたは専攻、学年、おおよその履修者数（アンケートの準備に使用します）をお知らせください。

2. 実施準備（対象教員と部門担当者）

実施する授業が決定したら、教育改革推進部門の担当者より学生アンケートの用紙（履修者数分）を学内便で送付します（web で実施したい場合はお問い合わせください）。また、「授業実践の振り返りシート」（A3 版 word ファイル）をメールで送付します。シラバス、授業計画書は任意様式ですが、必要な場合はフォーマットを送付しますのでお問い合わせください。

3. 「授業実践の振り返り」を行う（対象教員）

実施する授業のシラバス、授業計画書（任意の1回分）作成し、中間期に学生アンケートを実施します。学生アンケートを学内便で教育改革推進部門の担当者に返送してください（web で実施した場合は返送が不要です）。集計は教育改革推進部門で行い、集計結果をメールで送付します。

アンケート結果を見ながら、「授業実践の振り返りシート」を作成します。当該授業の担当部分が終了、または成績評価が終了した時点までに作成し、教育改革推進部門の担当者まで、「シラバス」、「授業計画書」、「授業実践の振り返りシート」の3点をメールに添付してシートをご提出ください。

4. 所属学部の FD 委員長の確認（FD 委員と部門担当者）

対象教員の所属する学部の FD 委員長が、提出された「シラバス」、「授業計画書」、「授業実践の振り返りシート」の各項目を確認し、授業における計画、実施、評価、改善のプロセスが実践できていることを確認します。確認の結果、シートの修正をお願いする場合があります。教育改革推進部門の担当者が FD 委員とやり取りを行い、結果等の連絡をいたします。

5. FD 委員会での承認（FD 委員と部門担当者）

授業における授業における計画、実施、評価、改善のプロセスが実践できていることが認められた場合は、FD 委員会において「授業実践の振り返りシート」の承認を得ます。結果は教育改革推進部門の担当者より連絡いたします。